

平成 20・21・22 年度宇治市教育委員会小中一貫教育研究指定校

# 宇治ひろの学園 実践研究発表会

## 指導案集



平成 23 年 2 月 3 日(木)

## 目 次

### 会場：大久保小学校(11:35~12:20)

道徳学習指導案	1 ~ 2
国語科学習指導案	3 ~ 5
理科学習指導案	6 ~ 8

### 会場：大開小学校 (11:35~12:20)

音楽科学習指導案	9 ~ 10
算数科学習指導案	11 ~ 13
国語科学習指導案	14 ~ 16
外国語活動学習指導案	17 ~ 19

### 会場：広野中学校 (13:55~14:45)

英語科学習指導案	20
音楽科学習指導案	21 ~ 22
美術科学習指導案	23
理科学習指導案	24
数学科学習指導案	25 ~ 26
国語科学習指導案	27
保健体育科学習指導案	28
社会科学習指導案	29
技術・家庭科学習指導案	30
総合的な学習の時間 「宇治学」学習指導案	31 ~ 32
研究発表資料	33~40

# 道徳学習指導案

指導者 大久保小学校 赤野 清美

- 1 対象 大久保小学校 第1学年2組 男子19名 女子17名 計36名  
広野中学校 第1学年 男子4名 女子5名 計9名 (学習アシスタントティーチャー)
- 2 日時 平成23年2月3日(木) 第4校時 11:35～12:20
- 3 場所 大久保小学校 ランチルーム
- 4 主題名・資料名 「4つの窓」 (内容項目 2-(3) 友達と仲よく)

## 5 児童の実態

このクラスは、素直な児童、言われたとおりに努力しようとする児童が多い反面、自分の思いをうまく表現できない児童も多い。まだ、1学年なので、伝えたい思いはあっても、どう言葉にしているのかわからないのだろう。そのため、うまく伝えられないために起こるもめごとに対しては、できる限りあったことや思いを担当が聞き出し、代弁したり言い方を教えたりしてきた。授業の中でも、できるだけ発言の機会を増やすよう工夫してきたが、自信がなくて発言することをためらう児童が多い。また、わかっている、みんなの前で発言することに抵抗があり、なかなか手を挙げられない児童もいる。

そこで、中学生の力も借りながら、自分の思いを伝え合い、この活動を通して、友達との関係をさらに深めていきたいと考えている。

中学生との活動は、これまでに2回、行っている。1回目は、じゃんけんゲームやグループの名前決めなどを通して、中学生にリードしてもらいながら、楽しい時間を過ごすことができた。2回目は、中学生にも慣れ対話ができる雰囲気の中で、グループ対抗ゲームや仲間集めゲームを通して、中学生にリードしてもらいながら、自分らしく表現する体験をした。

3回目となる今回は、自分の好きな物とそのわけを伝える活動を中学生にリードしてもらい、自分のことを表現したり、友達のことを理解したりする態度を育てていきたい。

## 6 本時のねらい

小学生は、自分と似たような好みを持つ友達、また自分と違う友達の存在を知り、お互いの理解を深め合う。中学生は、自分の今までの経験を深めていく機会とする。

## 7 授業改善の視点

中学生にアシスタントティーチャーとして支援してもらうことで、小学生は自分の意見をみんなに伝えられるようにする。中学生は、小学生の考えをうまく引き出す方法を学ぶ。

## 8 小中一貫教育の視点

研究主題である「自分の気持ちや考えを伝え合うことができる」ための素地を作る。自分の意見をはっきり持ち友達に話すこと、友達の意見をしっかりと聞くことを大切にする。

「道徳の内容」の学年段階としては、次のようになる。

前期 (小1～小4)	中期 (小5～中1)	後期 (中2～中3)
友達と仲よくし、互いに理解し、信頼し、助け合う。	互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。	友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。

9 本時の展開

過程	学習活動	形態	主な発問予想される児童の反応	指導上の留意事項	資料・評価等
導入	本時の活動・めあてを知る。	グループ		<ul style="list-style-type: none"> <li>活動内容とめあてを説明する。</li> <li>中学生を各班に配置し、進行の支援をさせる。</li> </ul>	板書カード
展開 (前段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>班の友達を紹介し合うなかで友達の得意なことや良いところを知る。</li> <li>自分の好きな物やその訳を話し合う。</li> </ul>	<p>一斉</p> <p>グループ</p> <p>一斉</p>	<p>○班の友達を紹介しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○○さんです。○○さんは、□□が得意です。</li> </ul> <p>○「4つの窓」という活動を行います。自分の好きな物やその訳を話したり聞いたりしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いを大切にす活動に期待感をもつ。</li> </ul> <p>○あなたの好きな食べ物(勉強、季節)はどれですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どれにしようか決めかねる児童が出てくる。</li> </ul> <p>○好きな食べ物(勉強、季節)の窓に行きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>われ先にと、元気よく移動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学生には、事前に、紹介する友達の得意なことを聞かせておく。</li> <li>自分の好きなものを選び、その理由を話す。</li> <li>中学生には、活動内容をわかりやすく説明させる。</li> <li>ぴったりする物がない時は、一番近いと思う物を選ばせる。</li> <li>中学生には、4つの窓に、アシスタントとして分かれて入らせる。</li> <li>友達の動きにとらわれず、自分が思った所に行かせる。どの質問の時も最後の児童が移動し終わるまで待つ。</li> <li>中学生には、迷っている児童を援助させる。</li> </ul>	4つの選択肢を書いたカード
展開 (後段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>人にはいろいろな考えがあることを知る。</li> </ul>	<p>グループ</p> <p>一斉</p>	<p>○どうしてその食べ物(勉強、季節)が好きなのですか。わけを話しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の心と向き合い、自分らしく表現する。</li> </ul> <p>○自分と違う物が好きな人のわけを聞きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他者の考えや気持ちに興味をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの窓の話の進み具合を見る。</li> <li>中学生には、同じ窓に集まった児童から、そのわけを聞き出させる。</li> <li>中学生には、聞いたわけをみんなに伝えさせる。</li> <li>自分と違う気持ちに気付かせる。</li> </ul>	<p>自己表現ができています。</p> <p>他者理解ができています。</p>
終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の感想を交流し合う。</li> </ul>	グループ	<p>○今日の活動で、気がついたことや思ったことを話しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな考えを持つ友達のことがよくわかりました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分と同じ、または違う友達への気づきを発表させる。</li> <li>中学生には、班の児童から感想を聞き出させる。</li> </ul>	

# 国語科学習指導案

指導者 大久保小学校 生島 綾

- 1 対象 大久保小学校 第3学年5組 男子18名 女子16名 計34名
- 2 日時 平成23年2月3日(木) 第4校時 11:35～12:20
- 3 場所 大久保小学校 第3学年5組教室
- 4 単元 よりよいくらしについて話し合おう「もうどう犬の訓練」(説明文)
- 5 児童の実態

本学級の児童は教師の指示に素直に従い、学習課題にまじめに取り組もうとする。また、自ら本に親しもうとする姿が見られる。しかし一方では「自分の思っていることを進んで発表しようとはするが、前の人とのつながりというより、ただ自分が話したいという児童」や「人前で話すことに抵抗を感じ、なかなか自分の思いを発表できない児童」が多い。発表できない児童は、「自分の意見を持っているが発表できない児童」と「自分の意見を持っていないから発表できない児童」に分けることができる。また聞くことにおいても、大事なことや要点を聞き逃すことがあり、授業内で話し合いによって学習が深まる場面が生まれにくくなっていた。そこで、「話すこと・聞くこと」の基礎・基本の定着を図り、他の教科においても継続指導に取り組んできた。

2学期の9月教材である“中心をはっきりさせて説明しよう「わたしのお気に入りの場所」”では、グループごとに学校内の場所を取材し、それらを発表する取組を行った。この単元では、わかりやすく相手に伝えるためには、どのようにすればよいかを児童に意識させ、重点的に指導した。さらに、グループ内で、「司会」「レポーター」「解説」の役割分担をし、それぞれの役割に応じた話し方も考えさせた。発表会の前にグループで声の大きさや話す速さ、間の取り方を意識して発表の練習やリハーサルをすることで、話すことに慣れ、自信を持って発表することができた。また、発表会では、聞き手は話し手の良いところや発表を聞いて分かったことを発表後にメモをとる活動を取り入れた。このことで、話し手が伝えたいことの内容を意識して聞くことができた。

本単元では、説明の順序に注意しながら、段落の内容を正しく読み取る学習をする。その読み取りを受けて、よりよいくらしについて調べ、話し合いを行う。伝わりやすい話し方をするに加え、児童自身が能動的に「聞き手」になるようなめあてを設定し、「聞くこと」を自覚させ、意識させた。

## 6 単元目標

- 自分なりの読み取りの課題を持ち、学習活動に意欲的に取り組む。(関心・意欲・態度)
- 説明の順序に注意しながら、段落の内容を正しく読み取る。(読む能力)
- 調べて分かったことや自分が考えたことをグループで話し合い、全体で交流する(話す・聞く能力)
- 調べた情報から発表する事柄を取捨選択し、整理して書く。(書く能力)
- 漢字を正しく読み書きをする。(言語についての知識・理解・技能)

7 単元指導計画（全16時間）

次	時	指導内容	主な学習活動
第一次	1	学習課題の把握	○盲導犬や目の不自由な人の暮らしに関心を持つ。 ○盲導犬について、知っていることを話し合う。
	2	意味段落分け	○教材文を通読し、書かれていることの概要をつかむ。 ○分かったこと、詳しく読み取りたいことを発表する。
第二次	3	課題追求 本文の読み取り、まとめ	○教材文を読み、犬の特長と盲導犬の定義を読み取る。
	4	課題追求	○人の言うことに従う訓練について読み取る。
	5 6	本文の読み取り、まとめ	○人を安全に導く訓練について読み取る。 ○盲導犬にふさわしい心構えとは何かを読み取る。 ○訓練を受けて、一人前になった盲導犬について想像し、意見を発表する。
第三次	7	振り返り	○学習を振り返り、教材文を読んだ感想を交流する。
	8	テーマ決定	○疑問に思ったことやもっと詳しく知りたいと思ったことを交流する。 ○グループごとに、話し合いのテーマを決める。 ○調べる方法を考える。
	9	情報収集	○前時に決めた話し合いのテーマに沿って、調べる。 ○調べたことを整理する。
第四次	10	整理・まとめ	○調べた事柄を順序立てて、話せるように、話の内容を考える。
	11		○話す内容をメモや原稿にまとめ、話す練習をする。
	12		○話し合いのルールを確認する。
	13	グループでの話し合い・交流	○調べたことをグループで話し合う。
	14 (本時) 15		○他のグループの話し合いを聞き、更に知りたい点を質問する。
第五次	16	意見や感想の交流	○前時の話し合いについて振り返り、意見・感想をまとめる。 ○学習を振り返り、話し合いの仕方を確認する。

8 本時の目標（本時 14 / 16）

- ・ グループで考えたことや調べたことを発表できる。 (話す・聞く能力)
- ・ 発表をみんなで交流し、自分の意見や感想を持つことができる。 (話す・聞く能力)

9 授業改善の視点

- ・ 事前に発表グループのテーマを知らせ、自分の意見を書き出させておくことで、自分の意見と比べながら、発表を聞けるようにする。
- ・ 話し手は、テーマについて自分の考えを順序立てて整理し、自分の考えを分かりやすく伝えるように話す準備や練習をさせておく。

- ・ 「もうどう犬の訓練」の本文から読み取った知識以外にも共通の体験を多くさせることで、意見を持ちやすいようにする。

## 10 小中一貫教育の視点

友達の意見を聞き、思ったことや分かったことを自分の言葉で表現することの楽しさを味わわせることで、高学年におけるテーマに沿った討論会につなげる。

### 11 本時の展開

過程	指導内容	指導形態	主な学習活動	指導上の留意点	評価
導入	本時のめあての把握	一斉	○本時のめあてを知る (板書カード)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時のグループでの発表を振り返り、発表会をしようという意欲を引き出す。</li> <li>・話し手は中心をはっきりさせて話すことや、聞き手は相手の伝えたいことは何か考えながら聞くことを確認する。</li> </ul>	
		グループで考えたことや調べたことを発表し、みんなで交流しよう			
展開	話し合い活動	一斉	○1班目が発表する。 (グループ発表)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に発表する班のテーマを知らせ、質問したいことや詳しく知りたいことなどを書き出したことを意識しながら聞かせる。</li> <li>・自分の伝えたいことをはっきり伝えるよう声掛けをする。</li> <li>・参考資料の見せ方を工夫させる。</li> <li>・司会役の児童は、全員の考えが発表できるよう話し合いを進めることを心がけさせる。</li> <li>・その場ですぐに質問に答えられなくてもよいことを伝え、積極的に話し合えるようにする。</li> </ul>	<p>考えたことや調べたことを、発表している。 (話す・聞く) (発言)</p> <p>A・・・ 感想なども踏まえながらわかりやすく発表したり、質問にもわかりやすく答えたりしている。 発表にとまどっている友達の支援をしている。</p> <p>C・・・ 台本を見直したり、友達の意見を聞いたりして発表できるように助言する。 班の児童に援助させる。</p> <p>発表に対して自分の意見をもっている。 (話す・聞く) (発言・メモ)</p> <p>A・・・ テーマに沿った質問をしたり、自分と相手の意見の相違点や共通点を比べながら話し合ったりしている。</p> <p>C・・・ うまく話している友達の姿に目を向けたり、「～と同じで」「…と違って」といった話し方を助言する。 考えや思いを文章に記してもよいことを助言する。</p>
		個別	○発表を聞いて思ったことをメモに記す。		
		一斉	○感想や質問を発表し、意見交流を行う。		
		一斉	○2班目が発表する。 (グループ発表)		
		個別	○発表を聞いて思ったことをメモに記す。		
		一斉	○感想や質問を発表し、意見交流を行う。		
		一斉	○3班目が発表する。 (グループ発表)		
		個別	○発表を聞いて思ったことをメモに記す。		
一斉	○感想や質問を発表し、意見交流を行う。				
まとめ	本時の振り返り	個別 一斉	○まとめをする。 今日の学習を終えての振り返りをする。	・めあてにそっての教師の評価を伝える。	

# 理科学習指導案

指導者 T1 広野中学校 藤井 裕樹  
T2 大久保小学校 東 準子

- 1 対象 大久保小学校 第5学年4組 男子19名 女子17名 計36名
- 2 日時 平成23年2月3日(木) 第4校時 11:35～ 12:20
- 3 場所 大久保小学校 理科室
- 4 単元 もののとけ方
- 5 児童の実態

全体的に幼さが目立つが、素直な疑問を持ち、観察や実験結果に驚きを持ちながら学習に取り組んでいる。また、興味や関心を発言によって表現する児童も多い。

この単元で学習する「溶ける」という現象に関しては、生活を通して経験しているだろうが、「ものが水に溶ける」(溶解)と「氷が水の中で融ける」(融解)を同じように捉えている児童もいると思われる。まずは「溶ける(溶解)」とはどのような現象かを学習する必要がある。また、第5学年では、これまでに「植物の発芽と成長」における対照実験、「流れる水のはたらき」における流水実験以外の実験がなく、実験器具の操作や実験の技能については未習熟の児童が多いことが予想される。本単元では、小学校段階での基本的な実験技能の習得を目指し、中学校への学習につなげられるようにもしたい。

## 6 単元目標

- ものが水に溶ける現象に興味を持ち、水の温度や量による溶け方の違いを進んで調べようとする。  
(自然事象への関心・意欲・態度)
- ものが水に溶けるときの規則性についての見方や考え方をもちことができる。(科学的な思考)
- ものを水に溶かし、水の温度や量による溶け方の違いを調べることができる。(観察実験の技能・表現)
- ものが水に溶けても、水とものを合わせた重さは変わらないことや、ものが水に溶ける量には限度があること、水の温度や量、溶けるものの種類が変わると、ものの溶ける量が変わることがわかる。  
(自然事象への知識・理解)

## 7 単元指導計画(全13時間)

次	時	指導内容	学習活動
第1次	1	もののとけ方	○ものを水の中に入れたときの様子を観察し、「溶ける」とはどのような現象をいうのかをとらえる。
	2		
第2次	3	水にとけたもののゆくえ	○ものが水に溶けたとき、溶けたものの重さはどうなるのかを予想する。 ○ものが水に溶けてもその重さは変わらず、全体の重さには変化がないことを、実験によって確かめる。
	4		
第3次 (本時)	5	水にとける量の限度	○メスシリンダーなどの実験器具を正しく使用する技能を習得する。 ○一定温度、一定量の水の中にものを溶かし、溶ける量に限度があること、ものによって限度が違うことを確かめる。 ○ものが溶ける量が水の量によって変化することをとらえる。
	6		
	7		
	8	水の温度ととける量	○水に溶ける量を増やす方法を考える。 ○ものが溶ける限度は水の温度によって違うことをとらえる。
	9		
第4次	10	とかしたものを取り出す	○水溶液から溶けているものを取り出す方法を考える。 ○水の温度を下げたり、蒸発させたりすることにより、溶けているものが取り出せることを確認する。
	11		
	12	結晶づくり	○ミョウバンの飾りを作る。

まとめ	13	学習のまとめ	○ものの溶け方にはきまりがあることを確認する。
-----	----	--------	-------------------------

8 本時の目標（本時 7 / 13 ）

- 実験器具を正しく使用し、水にもものが溶ける量を調べ、記録することができる。  
(観察実験の技能・表現)
- ものが水に溶ける量は、水の量やものの種類によって違いがあることがわかる。  
(自然事象への知識・理解)

9 授業改善の視点

- 各自が自分の課題を持って学習できるように、話し合いや交流の場を設定する。
- 話し合い活動では、これまでの学習をもとに予想を立て、予想の根拠を明らかにしながら説明させる。

10 小中一貫教育の視点

- ものが水に溶ける量の変化や溶ける量の限度については中学校第1学年で学習する物質の溶解度や再結晶へとつながる。物質の種類によって、同じ量の水に溶ける限度が違うこと、溶ける限度を増やす方法を考えさせたい。
- ものが水に溶けても、水とものを合わせた質量が変わらないことについては、中学校第2学年で学習する質量保存の法則を視野に入れ、ものを溶かす前後で全体の質量は変わらないことをとらえさせたい。
- 本時では、調べること以外の条件を同じにする対照実験を扱う。これは中学校第1学年で学習する植物のはたらきを調べる実験をはじめ、多くの分野で扱う実験である。同じにする条件、変える条件を考えさせたい。

11 本時の展開

過程	指導内容	指導形態	主な学習活動	指導上の留意点		教材・ 教具等	評価 (評価観点) 〈評価方法〉	
				T 1	T 2			
導入	・前時の復習	一斉	○前時の内容を振り返る。	・前時の内容である、ものが水に溶ける量には限度があることを思い出させる。	前時の実験結果を思い出させる。	板書カード		
展開	・本時の学習課題の確認	一斉	もっとたくさんのものをとく方法はなないだろうか。					
	・方法の予想	個別	○本時の学習課題を知る。 ○予想を立てる。 ・水の量を増やせばいっぱい溶けそう。 ・温度を上げると溶けると思う。	・これまでにもものよりたくさん溶けるような場面を見たり経験したことはないかを考えながら、予想を立てさせる。 ・たくさん溶かす方法だけでなく、ものがたくさん溶けている場面についても発表させる。	・予想を立てられない児童への支援  ・ものが沢山溶けている水溶液を具体的に思い出させる。	ワークシート	○実験器具を正しく使用し、結果を記録している。 (技能・表現) 〈行動観察・記録分析〉 A…実験器具を正しく使うなどして、食塩などが溶ける量を調べ、分かりやす	
	・予想の交流	一斉	○予想の根拠を明らかにして、自分の考えを発表する。 ・海には、いっぱい溶けているから、水の量を増やすといいと					

			<p>思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・料理をするときはお湯だから、温度を高くするといいと思う。</li> </ul> <p>○実験手順や結果の記録のしかたを確認する。</p> <p>○実験をする。</p> <p>○結果をワークシートに記録する。</p> <p>○実験結果を発表し、共有する。</p>	<p>・水の量のちがいによる溶ける量の変化を調べることを伝え、どの条件を同じにする必要があるのか考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・溶かすものはすり切り一杯ずつ入れるよう助言し、溶けきるまで新たに入れないようにさせる。</li> <li>・結果確認を行い、結果を板書する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導を行い、実験の支援、結果の分析ができるようにする。</li> <li>・水の量による溶ける量の変化を、前回の結果と比較して考えさせる。</li> </ul>	<p>ビーカー、水、食塩、ミョウバン、ガラス棒、メスシリンダー、スポイト、計量スプーン</p>	<p>く記録している。</p> <p>C…実験手順や実験操作を説明しながら、一緒に操作する。</p> <p>○ものの種類、量によって水にとける量がかわることを理解している。</p> <p>(知識・理解) 〈記録分析〉</p> <p>A：ミョウバンも食塩も水の量によって溶ける量がかわり、ものによって同じ量に対する溶ける量が違うことを理解している。</p> <p>C：記録から水の量種類によって溶ける量が違うことを確認させる。</p>
まとめ	結果の考察	一斉	○結果から分かったことをまとめる。	・記録からものの溶け方のきまりを考えさせる。	・考察が書けない児童を支援する。		

# 音楽科学習指導案

指導者 大開小学校 佐藤優樹

- 1 対 象 大開小学校 第2学年2組 男子14名 女子14名 計28名  
広野中学校 第1学年 女子6名 (学習アシスタントティーチャー)
- 2 日 時 平成23年2月3日(木) 第4校時 11:35~12:20
- 3 場 所 大開小学校 音楽室
- 4 題 材 「いい音を見つけてあそぼう」
- 5 児童の実態

本学級は明るく素直な児童が多く、身体表現をしながら歌を歌ったり、休み時間には教室に置いてある打楽器や鍵盤ハーモニカを演奏したり音楽を楽しむ姿が見られる。何事に対しても一生懸命取り組むことができる反面、自分の考えをしっかりと持つことが難しく、自分の思いをみんなに伝えようとする意識は低い。

そこで、歌を歌うことや楽器を演奏すること、リズムあそび等、楽しく音楽活動に取り組む中で、自分を表現する力を伸ばしたい。

## 6 題材の目標

- ・ 音に関心をもち、進んで演奏しようとする。(音楽への関心・意欲・態度)
- ・ 音色の違いを生かして音の組み合わせや音の出し方を工夫する。  
(音楽的な感受や表現の工夫)
- ・ 拍の流れに乗って正しいリズムで演奏することができる。(表現の技能)
- ・ いろいろな楽器の音や響きの違いを感じ取って聴く。(鑑賞の能力)

## 7 単元指導計画 (全10時間)

次	時	指導内容	学習活動
1	1	・ 虫のこえ	・ 歌詞の表す情景をとらえて表現豊かに歌う。
	2		・ 虫の鳴き声を打楽器で演奏する。
	3	・ シンコペーテッド・クロック	・ いろいろな楽器の音色の違いを感じ取って聴く。
2	4	・ 音さがし	・ いろいろな打楽器の中から好きな音を見つけて、音の出し方を工夫する。
	5		・ 中学生による管楽器のアンサンブルを聴く。
3	6	・ かぼちゃ	・ 音色の違いを生かし、音の組み合わせを工夫して、歌に合わせて演奏する。
	7		
	8	・ 手のひらをたいように(本時)	・ グループに分かれ、拍の流れにのって、簡単に長いリズム譜を演奏する。
	9		・ 打楽器を使って演奏し、表現を工夫する。
	10		

## 8 本時の目標 (本時8/10)

- ・ 小学生は、拍の流れに乗って、簡単に長いリズム譜に親しみをもつことができる。  
(音楽への関心・意欲・態度)
- ・ 中学生は、小学生にわかりやすく教えることで、その内容を深め、伝え合う力を育成することができる。

9 授業改善の視点

グループごとにそれぞれのリズムを聞き合い、よりよい表現を目指す。中学生がグループ活動を支援することで、よりよい活動となることを目指す。

10 小中一貫教育の視点

低学年のリズム遊びから少し長いリズム譜に触れ、それぞれのパートに分かれて演奏することにより、次学年の合奏の基礎となる力を育成する。また、中学生が教えることを通して、自分の行動や発言に関して責任を持つ態度を育成する。

11 本時の展開

過程	指導内容	指導形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具等	評価 (評価観点) 〈評価方法〉
導入	1 体ほぐしと声出し	一斉	歌う時の姿勢を確認する。 歌を歌う。	・目と口を大きく開け、楽な姿勢で歌うよう指導する。 ・中学生にも小学生と一緒に歌わせる。	板書カード	
	2 めあての確認					
展開	3 グループ練習	グループ	グループに分かれ、「手のひらを太陽に」の楽譜の与えられたパートを練習する。	・机間指導をしながら、努力を要する児童にリズムを指導する。 ・中学生に各グループに一人ずつ分かれて指導させる。	「手のひらを太陽に」のリズム譜	拍の流れに乗って、簡単で長いリズム譜に親しみを持っている。 (音楽への関心・意欲・態度) 〈活動の様子を観察〉 A・正確にリズムを演奏でき、リズム譜に親しみを持っている。 C・簡単なリズムから少しずつ長い小節を演奏できるように個別に支援し、リズム譜に親しみを持てるようにする。
	4 発表(合奏)	一斉	練習できたところまでを合奏する。 ピアノの音楽に合わせて演奏する。	・拍が乱れないようにピアノ演奏する。		
	5 グループ練習	グループ	グループ毎に練習する。	・一小節毎に区切りながら練習した後、4小節ないし8小節通して演奏するように中学生に指導させる。		
	6 発表(合奏)	一斉	ピアノの音楽に合わせて演奏する。	・小節の頭が休符で始まるリズムに注意させる。		
まとめ	7 感想を発表	一斉	本時の感想を発表する。	本時でできるようになったこと、難しかったこと、思ったこと等を発表させる。		

# 算数科学習指導案

指導者 T1 広野中学校 今堀 翔  
T2 大開小学校 尾松 弘子

- 1 対象 大開小学校 第3学年2組 男子 16名 女子 16名 計 32名  
2 日時 平成23年2月3日(木) 第4校時 11:35 ~ 12:20  
3 場所 大開小学校 第3学年2組教室  
4 単元 分数の表し方  
5 児童の実態

明るく元気で、学習に対しても真面目に取り組もうとする児童が多い。しかし、算数の学習においては、計算領域における習熟度の差が大きくなってきている。また、数の十進構造や数量関係を理解し、図や式で表すことが苦手な児童もいる。本単元では、具体物を用い等分した1つ分の大きさを考えることが視覚的にイメージできるように、指導していきたい。

## 6 単元目標

- (1) はした部分を表すのに分数を用いることに関心を持ち、進んで学習しようとする。  
【関心・意欲・態度】
- (2) 単位分数の何個分の考え方をもとに分数の大きさの表し方を考えることができる。  
【数学的な考え方】
- (3) はした部分を分数を使って表したり線分図を使い分数を表し大小の判断をしたりすることができる。  
【表現・処理】
- (4) 分数の表記、数としての分数、連続量としての分数等の意味が理解でき、簡単な場合についての分数の加減計算の仕方がわかる。  
【知識・理解】

## 7 単元指導計画(全9時間)

次	時	目標	学習活動
1	1	はしたの長さの表し方を考えることを通して課題をつかみ「何分の1」という表現を知る。	・リボンのはした部分の表し方を考え、「1mの何分の1」という表現を知る。
2	1 (本時)	分数の意味と表し方を知る。 分割による1mの何分の1という見方とその表し方を知る。	・「3分の1メートル」を「 $\frac{1}{3}$ m」と表すことを理解する。 ・「3分の1メートル」を「 $\frac{1}{3}$ m」と表すことやその2個分を「3分の2メートル」と表すことを理解する。
		分数(真分数)の意味と小数の関係を知る。	・分数(真分数)の意味と小数の関係を考え、理解する。
3	1	数としての分数を知り単位分数の何個分という見方を知る。	・1を5等分した線分図を見ながら、数としての分数を知り、1より小さい、1に等しい、1より大きい分数を理解する。
	1	分数を数直線上に表し同分母分数の大小を比べることができる。 1との関係について理解する。	・分数を表す線分を仲介にして、分数を数直線上に表したり、数直線上の点を分数を使って表す。
	1	分数ものさしを作り、分数についての関心を深める。	・床の板目などを使って分数ものさしをつくりいろいろな物の長さを測る。

	1	練習	練習問題に取り組む。
4	1	同分母分数の足し算を理解する。	同分母分数の足し算が出来る。
	1	同分母分数の引き算を理解する。	同分母分数の引き算が出来る。
5	1	基本のたしかめ 学習内容の自己評価	

8 本時の目標（本時 2/9）

- ・はしたの部分分数を用いて表すことができる。

【表現・処理】

9 授業改善の視点

- ・授業のねらい、重要なポイントを板書カードを活用して授業のめあて・まとめを関連させ、明確にする。
- ・分数の仕組みをテープなど視覚的な教材を用いて確実に理解させる。

10 小中一貫教育の視点

- ・中学生でも分数の概念を理解できていない生徒が多いため、分数の入り口である小学生での導入では視覚的な教材を用いて確実に定着させておきたい。
- ・算数、数学で育てる『伝え合う力』として、「具体物・言葉・数・式・グラフを用いて根拠を明らかにしながら、自分の考えを表現したり、他者に説明する力を高める。」ことを大切にする。

11 本時の展開

過程	指導内容	指導形態	主な学習活動	指導上の留意点		教材・ 教具等	評価
				T 1	T 2		
導入	前時の復習	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はした部分の長さを表すにはどのように表現したかを振り返る。</li> <li>・テープを3等分する。</li> <li>・1mを3等分した1つ分を「3分の1」ということを確認する。</li> <li>・本時のめあてを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テープを配布し、手順を説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3等分できない児童を支援する。</li> </ul>	板書カード テープ	
			1mを3等分した2つ分の長さは、何mと云えばいいか考えよう。				
展開	$\frac{1}{3}$ の表記	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「3分の1メートル」を<math>\frac{1}{3}m</math>とかくことを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「3分の1メートル」を<math>\frac{1}{3}m</math>とかくことを知らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導し、<math>\frac{1}{3}</math>の書き順を念押しす</li> </ul>		

展開	$\frac{2}{3}$ の表記	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>\frac{1}{3}m</math>の2つ分の長さは、何と云えばよいか考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>\frac{1}{3}m</math>の3つ分で <math>1m</math>になることを確認させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 机間指導しながら個別に支援する。</li> </ul>		<p>はしたの部分を表すのに分数を用いることを知り、図などを用いて分数で表すことができる。</p> <p><b>【表現・処理】</b>  A：はしたの部分を表すのに分数を用いることを知り、分数で表すことができる。  C：テープ図を用いて全体をいくつに分けた1つ分か、ということを考えさせる。</p>
	「分数」「分母」「分子」の用語と意味	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「分数」の用語とその意味を知る</li> <li>・ 「分母」「分子」の用語を知る。</li> <li>2…分子（分けた数のいくつ分かを表す）</li> <li>3…分母（等分した数を表す）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分数ははしたの数を表す数であることを確かめさせる。</li> <li>・ 分母と分子の意味についてテープ図で対比させて児童の考えを引き出し、理解させる。</li> </ul>			
	練習問題	一斉	<p>練習問題をする。</p> <p>㊦ <math>2/4m</math>   ㊩ <math>3/5m</math></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分数の意味が理解できているか確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 机間指導し、分数の意味が確実に理解できるように支援する。</li> </ul>		
	液量の分数表記	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>0.7l</math>は分数で表わすと何<i>l</i>と云えばよいか考える。</li> <li>・ <math>0.1 l</math>は、<math>1/10l</math>であることを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 液量のはしたも分数で表せることを理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小数と分数の関係が理解できるように個別支援する。</li> </ul>	10ます	
まとめ	本時のまとめ	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「分数」「分母」「分子」の確認をして次時の学習内容を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「分数」の意味を理解させ、次時の大小比較につなげる。</li> </ul>			

# 国語科学習指導案

指導者 大開小学校 稲石 さやか

1 対 象 大開小学校 第4学年2組 男子13名 女子15名 計28名

2 日 時 平成23年2月3日(木) 第4校時 11:35 ~ 12:20

3 場 所 大開小学校 第4学年2組教室

4 単 元 人物の気持ちのうつり変わりを考えよう 『ごんぎつね』

## 5 児童の実態

元気で明るく、好奇心旺盛な児童が多い。どの学習に対しても関心を持って取り組んでいる。授業中の発表にも積極的である。しかし、自分の思いを発表することや説明をするに関しては、自信の持てない児童もいるので、朝学習にスピーチを取り入れ、みんなの前で自分の思いを伝える経験を積んできた。

1学期に学習した文学作品「夏のわすれもの」では、教科書に書きこみをしたことをもとに、人物の心情の移り変わりや場面の状況把握に注目して、読み深めた。2学期の「一つの花」の学習では、場面ごとに学習課題を設定して、書き出しをもとに意見を交流した。戦時中という、現在からは想像しにくい時代の話なので、一つひとつの言葉の意味をおさえて、イメージを膨らませることも大事にした。本教材においても、昔の暮らしの様子が想像しにくいと考えるので、写真や絵を見せるなどして、イメージを膨らませたい。また、一人読みでは、読み間違える児童も多いので、言葉の意味をしっかりとおさえて、全体で確認しながら学習を進めていきたい。

## 6 単元目標

- ・「ごんぎつね」への思いを深め、登場人物の様子や気持ちの移り変わりを考えながら、読もうとする。  
(国語への関心・意欲・態度)
- ・登場人物の様子や気持ちを叙述に即して想像し、場面のつながりを考えながら物語を読み取る。(読む能力)
- ・課題にそって、自分の意見や感想などを話す。(話す・聞く能力)
- ・伝えたいことを、はっきりさせ自分の考えなどを書く。(書く能力)
- ・表現したり理解したりするために必要な文字や語句について辞書を利用して調べる。(言語についての知識・理解・技能)

## 7 単元指導計画(全16時間)

次	時	指導内容	学習活動
1	1	学習内容の把握	○全文を通読し、初発の感想を書く。
2	2	物語の場面把握	○場面ごとに「いつ」「どこで」の話かを整理し、物語の出来事の流れをとらえる。(一、二の場面) ○難語句を調べる。
	3	物語の場面把握	○場面ごとに「いつ」「どこで」の話かを整理し、物語の出来事の流れをとらえる。(三～六の場面) ○難語句を調べる。
	4	「一の場面」の読み取り	○出来事を読み取る。 ○いたづらをするごんの気持ちについて考え、書き出しをする。

3	5	「一の場面」の読み深め	○いたづらをするごんの気持ちについて考えたことを交流し、読み深める。
	6	「二の場面」の読み取り	○出来事を読み取る。 ○後悔するごんの気持ちについて考え、書き出しをする。
	7	「二の場面」の読み深め	○後悔するごんの気持ちについて考えたことを交流し、読み深める。
	8	「三の場面」の読み取り	○出来事を読み取る。 ○償いを繰り返すごんの気持ちについて考え、書き出しをする。
	9	「三の場面」の読み深め	○償いを繰り返すごんの気持ちについて考えたことを交流し、読み深める。
	10	「四、五の場面」の読み取り	○出来事を読み取る。 ○兵十と加助の会話を聞き、やるせなく思うごんの気持ちについて考え、書き出しをする。
	11	「四、五の場面」の読み深め	○兵十と加助の会話を聞き、やるせなく思うごんの気持ちについて考えたことを交流し、読み深める。
	12	「六の場面」の読み取り	○出来事を読み取る。 ○兵十のごんに対する気持ちについて考え、書き出しをする。 ○最後にうなずいたときのごんの気持ちを想像し、書き出しをする。
	13	「六の場面」の読み深め (本時)	○兵十のごんに対する気持ちについて考えたことを交流し、気持ちの変化を読み取る。 ○最後にうなずいたときのごんの気持ちについて想像したことを交流し、ごんへの思いを深める。
4	14	学習のまとめ	○物語の全体を振り返り、終わりの感想を書く。
5	15	作者の紹介	○新美南吉について知る。
	16	作品の紹介	○新美南吉の作品について知り、作品を選んで読む。

## 8 本時の目標 (本時 13/16)

- 兵十の気持ちの変化をつかむ。(読む能力)
- 最後にうなずいたごんの気持ちを考え、話し合う。(話す・聞く能力)

## 9 授業改善の視点

- ごんについて分かることに赤線、兵十について分かることに青線を引き、2人の様子を明らかにする。
- 書き出しをすることで言葉を大切にし、自分なりの考えを持たせる。
- 交流の中では、理由をはっきりさせながら考えを述べさせる。
- 交流の中で、新たに分かったことや読み深まったことをまとめの感想に書かせる。

## 10 小中一貫教育の視点

- グループの中で意見を交流し、話す・聞く力を身に付け、中学校のグループディスカッションにつなげるようにする。
- 物語の出来事の流れを丁寧に読み取り、盛り上がりをとらえられるようにすることで、高学年の物語の主題を考える力につなげるようにする。

11 本時の展開

過程	指導内容	指導形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具等	評価 (評価観点) (評価方法)
導入	学習課題の確認	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習を振り返る。</li> <li>・本時の学習課題を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「神様の仕業」だと言われ、引き合わないと考えたごんのお気持ちを考えさせる。</li> </ul>	板書 カード	
兵十とごんのお気持ちを考えよう						
展開	場面の音読  場面の読み取り ・ごんの行動・気持ち  ・兵十のお気持ちの変化  ・兵十に撃たれたごんのお気持ちについて交流する	一斉  一斉  グループ  一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・六の場面を音読する。</li> <li>・「その明るる日」、ごんはどうしたのか読み取る。</li> <li>・引き合わないと思いながらも栗を持って行ったごんのお気持ちを考える。</li> <li>・ごんを見つけた兵十のお気持ちを考える。</li> <li>・ごんを火縄銃で撃つ兵十の様子や気持ちをとらえる。</li> <li>・ごんの行動の意味に気付いた兵十のお気持ちを考える。</li> <li>・兵十に撃たれたごんはどのような気持ちだったのかグループで交流する。</li> <li>・全体の中で意見を交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごんが栗をかためて置いていたことから、ごんの兵十に対する気持ちを考えさせる。</li> <li>・一の場面を振り返り、兵十がごんに対して、どんな気持ちでいたのかを考えさせる。</li> <li>・ごんに対する兵十の呼び方が変わっている所に着目し、兵十のごんに対するお気持ちの変化を考えさせる。</li> <li>・自分の考えに理由を付けて話し合うようにさせる。</li> <li>・色々な意見を発表させ、ごんの複雑な心情を想像させる。</li> </ul>	一人読み ノート	<ul style="list-style-type: none"> <li>○兵十のお気持ちの変化をつかんでいる。(読)〈観察、ワークシート〉</li> <li>A：兵十の言動からごんに対するお気持ちの変化をとらえている。</li> <li>C：兵十のごんに対する呼び方がどのように変化したのか、違いをとらえさせる。</li> <li>○最後にうなずいたごんのお気持ちを考え、話し合っている。(話・聞)〈観察、ワークシート〉</li> <li>A：友だちの考えを聞いて、意見や質問を言っている。</li> <li>C：前時に書いたワークシートを見て、自分の考えを発言させる。</li> </ul>
<p style="text-align: center;">予想される児童の反応</p> <p style="text-align: center;">〈満足感〉・やっと気づいてくれた。今までやっていたよかった。 ・分かってもらえてうれしい。</p> <p style="text-align: center;">〈納得できない〉・どうして撃つんだ。死ぬのはいやだ。</p> <p style="text-align: center;">〈安堵感〉・心が通じてほっとした。</p> <p style="text-align: center;">〈孤独感〉・やっぱり一人ぼっちなんだ。</p>						
まとめ	本時の振り返り	個別	<ul style="list-style-type: none"> <li>・兵十やごんを見て、どう思うか感想を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちの考えを聞いて、考えたことをまとめられるようにする。</li> </ul>	ノート	

# 外国語活動学習指導案

指導者 H R T 大開小学校 吉川 喜春  
A E T 宇治市教育委員会 Larry Lom

- 1 対 象 大開小学校 第5学年2組 男子19名 女子14名 計33名
- 2 日 時 平成23年2月3日(木) 第4校時 11:35~12:20
- 3 場 所 大開小学校 ランチルーム
- 4 単 元 「時間割を作ろう」(英語ノート Lesson8)
- 5 児童の実態

本校では、AETのLarry先生の生の英語に慣れ親しめる環境にあり、授業中や休み時間などにも英語を話したり、AETの発音や仕草をまねたりするなど、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ柔軟な適応力を示している。

しかし、一方で、子ども達の日頃の生活場面を見てみると、まだまだ自己中心的で相手の気持ちを考えながらコミュニケーションをすることが苦手な児童が多い。そこで、外国語活動の授業の中で、Larry先生や担任、クラスの友達と、言語によるコミュニケーションはもちろんのこと、様々なジェスチャーや顔の表情を含めた非言語コミュニケーションも駆使して、双方向に伝え合い、理解し合おうとする態度を育てていきたい。

- 6 単元目標
  - ・教科名や曜日を表す英語に関心を持ち、作成した時間割をを伝えようとする。  
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
  - ・教科名や曜日を表す語を聞いて、英語での表現に慣れ親しむ。  
(外国語への慣れ親しみ)
  - ・AETの母国や日本以外の国の小学校で、どのような教科が学習されているのかを興味を持って聞く。  
(言語や文化に関する気付き)

## 7 単元指導計画 (全4時間)

次	時	指導内容	学習活動
1	1	○世界の小学校で学習する教科	・外国の小学校でどのようなことを学習しているのかを知るとともに、教科の言い方を知る。
2	2	○月曜日は何を勉強しますか	・教科名や曜日を聞いたり、言ったりする構文を知り、それを扱った歌やゲームを積極的に取り組む。
3	3	○何の先生ですか	・作成した時間割をもとに、自分のオリジナル曜日時間割を伝える。
4	4	○自分たちの時間割作り	・グループで作成した時間割を発表する。

## 8 本時の目標 (本時2/4)

○曜日の英語での言い方を知り、時間割の内容を聞いたり、伝えたりする。

(外国語への慣れ親しみ)

○教科名や曜日を扱った歌やゲームに積極的に取り組む。

(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

## 9 授業改善の視点

ゲームや歌を楽しむ活動を入れることによって学習意欲を高め、コミュニケーション能力を高める。

## 1 0 小中一貫教育の視点

本時は、歌やゲームを通して、担任、AET、クラスの友達に英語で伝え合う活動を実施する。このような活動を通して、小学校の外国語活動のねらいである「他者を理解し、自分を表現する」コミュニケーション能力を育てていくことが、中学校の学習指導要領で目標としているところのコミュニケーション能力の向上にもつながるものとする。

また、外国語活動の楽しさを十分に味わわせることで、中学校1年生での教科としての外国語にも興味を持ち、スムーズに入っていけるようにつなげていきたい。

## 1 1 本時の展開

過程	指導内容	指導形態	主な学習活動	指導上の留意点		教材・ 教具等	評価 (評価観点) 〈評価方法〉
				H R T	A E T		
導入	挨拶	一斉	はじめの挨拶をする。	全体に挨拶をしたあと個別に挨拶する。	個別に挨拶する。	板書カード	
	前時の復習	一斉	前時に学習した教科名を、ジェスチャーを見て英語で答える。	いくつかの教科をジェスチャーで表す。 カードを使って習熟させる。	How are you? ジェスチャーが何の教科を表しているのか聞く。 What subject is this?	教科絵カード	
展開	曜日当てクイズ	一斉	A E Tの言う教科を聞いて、それが何曜日の時間割か日本語で答える。	時間割表を貼り「曜日当てクイズ」について説明する。	ある曜日の教科名を言い、何曜日の教科名かを聞く。 We study math science.. What day is it? 児童が答えた曜日をA E Tに英訳してもらおう。	時間割表 曜日カード	曜日の英語での言い方を知り、時間割の内容を聞いたり、伝えたりしている。(表現)〈行動観察〉 A・・曜日の英語での言い方を覚え、積極的に時間割の内容を聞いたり伝えたりしている。 C・・構文が言えない児童には、出だしの部分を言ってやり、時間割の内容を聞いたり伝えたりさせる
	Sunday Monday Tuesday	一斉	各曜日を英語で繰り返し言う。 一緒に歌う。	カードを使って習熟させる 曜日カードを指し示しながら歌う 変化をつけて歌わせる。	It is Monday. 児童と一緒に歌う。	C D	
	時間割を作る	一斉	土曜参観の時間割を作り、発表する。	土曜日2校時分の時間割を発表出来るようにさせる。 児童同士でも発表の練習を	H R Tと一緒にデモンストレーションする。 What do you	時間割記録表	

	曜日ゲーム	一斉 グループ	土曜参観の時間割が同じ児童を探す。  曜日ゲームをする。 ※ドンじゃんけん風ゲーム	学習した構文を使い、同じ時間割を作った児童を探させる。  ゲームの説明をする 学級をいくつかのチームに分け対戦させる。 ゲームがスムーズに進むよう支援する。	study on Saturday? I study math and music on Saturday. 児童と一緒にゲームに参加し、わからない児童の支援をする。 ゲームがスムーズに進むよう支援する。 Let's play youbigame. Are you ready? Go.	曜日カード	曜日に関わる歌やゲームに積極的に取り組んでいる。(関心・意欲・態度)〈行動観察〉 A・・・豊かな表現力で活動している。 C・・・ゲーム等に消極的になる児童には、側について一緒に言ってやり、活動に参加させる。
まとめ	振り返り	個人	今日の活動を振り返りシートに記入する。	児童の英語を使おうとする態度面について良かったところを話す。 児童に今日の学習内容を振り返えらせる。		振り返りシート	
	挨拶	一斉	終わりの挨拶をする。	Thank you Larry.See you nextweek.Byebye.	終わりの挨拶をする。		

# 英語科学習指導案

指導者 T1 広野中学校 福田 幸祐  
T2 大久保小学校 三谷 武史

- 1 対象 大久保小学校第6学年1組 男子14名 女子15名 合計29名
- 2 日時 平成23年2月3日 (木) 第5校時 13:55~14:45
- 3 場所 広野中学校 第2学年1組教室
- 4 学習内容 中学校の英語にふれてみよう。—4技能を使って—
- 5 本時の目標
  - ・ 英語で聞きとったことを、班で話し合い発表する。(表現の能力)
  - ・ 自分の名前だけでなく、好きなことを英語で書く。(表現の能力)
  - ・ 英語で書かれた内容を理解し、それを相手に伝える。(理解の能力) (表現の能力)
- 6 小中一貫教育の視点
  - ・ 外国語活動での「聞くこと」「話すこと」を中心にした内容に加え、「書くこと」を取り入れることにより、中学校の英語科への関心や意欲を高める。
  - ・ 書いたことを周囲に示し、理解してもらうことにより、「話すこと」だけでなく、書いて自分の意見を伝える力を身につけさせる。
- 7 本時の展開

過程	指導内容	指導形態	主な学習活動	指導上の留意点		教材・ 教具等	評価
				T1	T2		
導入 15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語を使う国(アメリカ)について</li> <li>・ 英語での自己紹介</li> </ul>	一斉  一斉 個別 全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語で聞き取った内容を書く。(名前は英語で書く。)</li> <li>・ 書き取った内容を班で確認し、発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 写真を用いながら、興味を持たせる。</li> <li>・ 全員前を向かせ、書き取りができる態勢をとらせる。</li> <li>・ 2度自己紹介をし、1度目はスロースピードで読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全員前を向かせ、書き取りができる態勢をとらせる。</li> </ul>	写真 白板 書カード プリント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語で聞きとったことを、班で話し合い発表している。【表現】&lt;観察&gt;</li> <li>C: 児童の隣に行き、英語でヒントを与える。</li> </ul>
展開 25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スポーツ名を聞く・読む</li> <li>・ 自分の名前と、入りたい部活動または、好きなスポーツを文章で書く</li> </ul>	一斉  一斉 個別 全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リズムCDで聞き取ったスポーツ名を、なぞっていく。</li> <li>・ 答え確認時に発音する。</li> <li>・ スポーツ名に加え、広野中学校にある部活動名を自分で練習する。</li> <li>・ 例示を参考に自分自身の名前と、入りたい部活動または、好きなスポーツを文章で書く。</li> <li>・ 自分で書いた文章を見せ合い理解し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 机間指導を行い、詰まっている児童にはヒントを与える。</li> <li>・ 確認時には共に読み全員が読める雰囲気を作る。</li> <li>・ 例示する。</li> <li>・ 机間指導を行い、書けない・分からない児童を支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 机間指導を行い、詰まっている児童にはヒントを与える。</li> <li>・ 説明を全員がきちんと聞けるように、前を向かせる。</li> <li>・ 机間指導を行い、書けない・分からない児童を支援する。</li> </ul>	CD プリント プリント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の名前、好きなスポーツ名を英語で書く。【表現】&lt;ワークシート&gt;</li> <li>C: 横に同じ文章を例示し、それを見ながら書かせる。</li> <li>・ 英語で書かれた内容を理解し、それを相手に伝えている。【表現・理解】&lt;観察&gt;</li> <li>C: 絵つきのシートを見せ、英語と絵をリンクさせ、理解を促す。</li> </ul>
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内容の発表およびまとめ</li> </ul>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 何人かに答えを書かせ、まとめを聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全員に前を向かせ、書かれた内容について理解させる。</li> </ul>			

## 音楽科学習指導案

指導者 T1 広野中学校 姫野 裕美子  
T2 大久保小学校 玉置 光江

- 1 対象 大久保小学校第6学年2組 男子14名 女子15名 計29名
- 2 日時 平成23年2月3日(木) 第5校時 13:55～14:45
- 3 場所 広野中学校 音楽室
- 4 学習内容 ソプラノリコーダーで音リレーをしよう。
- 5 本時の目標
- ・他者の音を集中して聴き合い、楽しみながらフレーズを完成しようとする。  
【音楽の関心・意欲・態度】
  - ・音リレー形式で、音色や音圧を工夫しながらリズムを感じとる。  
【音楽の感受・工夫】
- 6 小中一貫教育の視点
- ・リコーダーの苦手な児童も必ず参加でき、集中してお互いの音を聴き合いリズムを体感できる授業を通して中学校での音楽の授業への関心を高める。
  - ・グループで話し合い、コミュニケーションをはかりながらリコーダーというツールで伝え合う。

### 7 本時の展開

過程	指導内容	指導形態	主な学習活動	指導上の留意点		教材・ 教具等	評価 (評価観点) <評価方法>
				T1	T2		
導入	音リレーの意味	一斉	「音リレー」とは全員がリコーダーを演奏し、音をつないでいくことを知る。	板書カードを用いてめあてを示す。	配慮や支援が必要な児童の横につき、適宜支援する。	板書カード	
	座奏時のフォームや注意点の説明	一斉	ソプラノリコーダーを出して、演奏準備をする。  座奏時のフォームや注意点を知る。	小学生にできるだけわかりやすく実演する。		ソプラノリコーダー	
展開	音を出す時のルール	一斉	アタックとリリースは指揮による合図ですることを知り、実際に音を出してみる。	ゲーム感覚で、リズムに変化をつけて合図(指揮)する。	運指がわからない児童に援助する。		他者の音を集中して聴き合い、楽しみながらフレーズを完成しようとしている。 【関心】 <観察法>
	音リレー	一斉 個別	階名カードに示された音を合図に合わせて一人ずつ音を出す。	児童の目を見てわかりやすい合図を出す。	順番が回らず聴いている生徒への注意を促す。	階名カード ソプラノリコーダー	C:解放音や長音は苦手な児童にも演奏しやすいことを

	グループごとの話し合い	グループ	音リレーによるグループ演奏の方法を知り、班隊形で担当を決める。	話し合いが滞っている班に助言する。	話し合いが滞っている班に助言する。	階名カード ソプラノリコーダー	アドバイスする。
	音リレーによるグループ演奏の練習	グループ 個別	提示した時間をつかってリズムカルに音リレーができるように練習する。	解放音や長音は苦手な児童にも演奏しやすいことをアドバイスする。	解放音や長音は苦手な児童にも演奏しやすいことをアドバイスする。	ソプラノリコーダー	音リレー形式で、音色や音圧を工夫しながらリズムを感じとっている。 【音楽の感受・工夫】 ＜観察法＞ C:音と音が切れてしまい、リズムが崩れないように全体のテンポ設定を変えるよう援助する。
	音リレーによるグループ演奏の発表		グループごとに発表する。	音と音が切れてしまい、リズムが崩れないように全体のテンポ設定を変えるよう援助する。			
まとめ	全員で音リレー	一斉 個別	全部で音のバトンが上手くわたるか、全員音リレーに挑戦する。	上手く音がつながらよう、テンポ設定する。	グループ発表の際滞っていた児童の援助をする。	ソプラノリコーダー	

# 美術科学習指導案

指導者 T1 広野中学校 田中 徹

T2 大久保小学校 渡邊 幾美

1 対象 大久保小学校第6学年3組 男子14名 女子15名 計29名

2 日時 平成23年2月3日(木) 第5校時 13:55 ~ 14:45

3 場所 広野中学校 美術室

4 学習内容 文字を美しく描こう(レタリング)

5 本時の目標 デザインの基本書体の描き方を理解し描く。(創造的な技能)

6 小中一貫教育の視点

伝える道具としての文字を美しく描くことで物事を訴える力をつけ、中学校1年生で学ぶ「文字のデザイン」に発展させていく。

7 本時の展開

過程	指導内容	指導形態	主な学習活動	指導上の留意点		教材・教具等	評価 (評価観点) <評価方法>
				T1	T2		
導入	学習のめあて	一斉	本時の学習の目標を理解する	<ul style="list-style-type: none"> <li>印刷物を例に、読みやすく美しいレタリングの基本は明朝体とゴシック体であることを説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>机間指導で集中を促す。</li> </ul>	ワークシート 掲示物  板書カード	
展開	基本書体の特徴	一斉	明朝体とゴシック体の特徴を考え、発表したり、プリントに記入したりする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>明朝体とゴシック体の特徴を考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>机間指導で記入箇所を指示するなどの支援をする。</li> </ul>		デザインの基本書体の描き方を理解し描いている。 <b>【技能】</b> <ワークシート> C: 机間指導でレタリングに修正を加えるなどの支援をする。
	基本書体の描き方		明朝体を例に描き方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>明朝体を例として描き方を説明する。</li> </ul>			
	基本書体を描く	一斉  個別	明朝体とゴシック体をワークシートに描く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>机間指導でレタリングに修正を加えるなどの支援をする</li> <li>時間内に仕上がらなかった場合は家で仕上げることを指示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>机間指導でレタリングに修正を加えるなどの支援をする。</li> </ul>		
まとめ	本時の評価と今後の制作	一斉	まとめの話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の評価</li> <li>今後の作品に生かせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>机間指導で集中を促す。</li> </ul>		

# 理科学習指導案

指導者 T1 広野中学校 井ノ本 耕介  
T2 大久保小学校 坂東 舞

- 1 対象 大久保小学校第6学年4組 男子15名 女子15名 合計30名
- 2 日時 平成23年2月3日 (木) 第5校時 13:55~14:45
- 3 場所 広野中学校 第2理科室
- 4 学習内容 身近で起こる不思議な現象
- 5 本時の目標

- ・ 風船を使って空気に重さがあることに関心を持つ。(自然事象への関心・意欲・態度)
- ・ ストローの原理を大気圧の観点から考えることができる。(科学的な思考)

## 6 小中一貫教育の視点

- ・ 日常ではあまり感じることはない空気の重さや気圧を、実験を通して論理的に考えることにより科学的な思考を育成し、中学校での理科の学習に意欲を持たせる。
- ・ 実験班で意見を1つにまとめることにより、互いの考えを聞き、伝える力を育成する。

## 7 本時の展開

過程	指導内容	指導形態	主な学習活動	指導上の留意点		教材・教具等	評価
				T1	T2		
導入 5分	空気、二酸化炭素、水素の重さの比較	一斉 グループ	本時のめあてを確認する。  空気を入れた風船が手を放すとどうなるかを考える。  同様に二酸化炭素、水素を入れた風船が手を放すとどうなるかを考える。	風船を使って空気、二酸化炭素、水素の重さを比較させる。  どのように落ちるのかも考えさせる。	話し合いの支援をする。	板書カード 風船 二酸化炭素 水素 お弁当ボード	風船を使って空気に重さがあることに関心を持っている。 (関心)〈観察〉 C:風船の動きを間近に見られるように配慮する。
展開 35分	気圧についての説明  ストローの原理  アルミ缶を気圧でつぶす実験	一斉 一斉 グループ 一斉	空気の重さと気圧の関係の説明を聞く。  ストローを使ってアルミ缶のお茶を飲む。  ストローで吸ったものは何かを考える。  洗ったアルミ缶をガスバーナーで加熱し、水で冷やす実験を行う。	気圧がもしなければという視点も入れて説明する。  ストローの使い方を確認しながら、その原理を考えさせる。  安全面には充分配慮する。	話し合いの支援をする。  実験の支援をする。	板書カード お茶 アルミ缶 ストロー お弁当ボード 水槽 つぼみ ガスバーナー	ストローの原理を大気圧の観点から考えることができる。 (科学的な思考)〈発表〉 C:ストロー内の空気を吸うとどうなるかを助言する。
まとめ 10分	本時のまとめ	グループ 一斉	なぜアルミ缶がつぶれたかを考える。  本時のまとめを確認する。		話し合いの支援をする。	板書カード お弁当ボード	

# 数学科学習指導案

指導者 T1 広野中学校 瀧川 香織

T2 大久保小学校 佐藤 昌樹

1 対象 大久保小学校第6学年5組 男子14名 女子16名 合計30名

2 日時 平成23年2月3日(木) 第5校時 13:55~14:45

3 場所 広野中学校 第2学年2組教室

4 学習内容 正負の数

5 本時の目標

- トランプを使って、既習の正の数以外に負の数があることに興味を持つ。

【数学への関心・意欲・態度】

- トランプゲームを通して、計算の仕方を工夫する。

【数学的な見方・考え方】

6 小中一貫教育の視点

- 数の概念が広がることにより、今まで扱わなかった問題を扱い、それに答えることができるようになることを知り、中学校になって学習する数学への興味を抱かせるようにする。
- 数学的な活動を通し、互いの考えを聞き、意見をまとめていく力を育成する。

7 本時の展開

過程	指導内容	指導形態	主な学習活動	指導上の留意点		教材・教具等	評価
				T1	T2		
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語の文章を、数字と記号で表してみよう</li> <li>負の数について考えよう</li> </ul>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語の文章を数字と記号で表す。</li> <li>①50円の財産を持っている。20円の支出があった。手元に残るのは30円の財産。</li> <li>②続けて50円の支出があった。手元に残るものを考えよう。</li> <li>本時のねらいを確認する。</li> <li><u>マイナスについて考えよう</u></li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>算数が苦手な生徒の横で、支援する。</li> </ul>	板書カード	
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> <li>トランプを使った数学的な活動のルールの説明</li> <li>ゲームの開始</li> </ul>	一斉  一斉  班別  一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>トランプを使ったゲームの説明を聞く。</li> <li>演示を見る。</li> <li>班長はトランプと記録用紙を受け取る。</li> <li>ゲームを開始する。</li> <li>ゲームを通して、負の数があることに気づく。</li> <li>結果発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ルールの説明を全員がきちんと聞けるように、前を向かせる。</li> <li>正の数と負の数の違いに着目できるようにする。</li> <li>早く終わった班は、次のゲームを開始し、第5ゲームまで行うことを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ルールの説明を全員がきちんと聞けるように、前を向かせる。</li> <li>T1と共に演示をする。</li> <li>机間指導を行い、説明がわからなかった班への支援を行う。</li> </ul>	拡大トランプ  トランプ 記録用紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>トランプを使って、既習の正の数以外に負の数があることに興味を持っている。</li> <li>【関心】</li> <li>〈観察〉</li> <li>C:トランプの赤がマイナスになることを助言する</li> </ul>

<p>ま と め 10 分</p>	<p>・ 正負の数の計 算方法</p>	<p>一斉</p>	<p>・ 計算方法で工夫したことを発 表する。</p> <p>・ 正負の数の計算に興味を持 つ。</p>	<p>・ 赤黒をまとめて 計算する方法、 同じ数字を打ち 消しあっていく 方法のどちらも 良い考えである ことを伝える。</p>		<p>拡大トランプ 板書カード</p>	<p>・ トランプゲ ームを通し て、計算の仕 方を工夫し ている。</p> <p><b>【表現・処理】</b> ＜観察・発表＞ C：計算方法の ヒントを 与える。</p>
-----------------------------------	-------------------------	-----------	--	--	--	-------------------------	--

# 国 語 科 学 習 指 導 案

指導者 T1 広野中学校 菅家 美沙

T2 大開小学校 山口 恵子

1 対 象 大開小学校第6学年1組 男子14名 女子12名 計 26名

2 日 時 平成23年2月3日(木) 第5校時 13:55 ~ 14:45

3 場 所 広野中学校 第2学年4組教室

4 学習内容 「漢字をつかったゲームをしよう。」

5 本時の目標 ・漢字の組み立てについて興味を持つ。 [関心・意欲・態度]

・漢字の字形を、その組み立てと部首から理解する。

[言語についての知識・理解・技能]

6 小中一貫教育の視点

・今まで習った漢字を組み合わせることにより、たくさんの漢字が生み出されていることに気づき、部首から、漢字の意味について理解し、中学校で習う漢字についても興味を持たせるようにする。

7 本時の展開

過 程	指 導 内 容	指 導 態 形	主 な 学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点		教 材 ・ 教 具 等	評 価 価 ( 評 価 観 点 ) < 評 価 方 法 >
				T 1	T 2		
導 入	・漢字の音読と訓読み	一斉	・「池」という漢字の読み方を聞き、音読みと訓読みがあること確認する。	・「池」を提示し、音読みと訓読みの違いを説明する。		板書カード	
展 開	・漢字をつかったゲームをする。	一斉  一斉	・ゲームのルールをしっかりと聞き、提示された部首で漢字を作る。  ・同じ部首の漢字は、共通の意味を持つことに気づく。	・大きな文字を書くことと、同じグループの人の漢字を見ないようにさせる。  ・ゲームの最後に書いている文字で、意味を確認させる。	・黒板の表にゲームの結果を記入しゲームの流れを明確にする。	フリップボード ペン ボードをふく紙 表を書いた模造紙 マグネット	・漢字の組み立てについて興味を持っている。【関心】 <観察> C: 例を示すなど支援をする。  ・漢字の字形を、その組み立てと部首から理解できている。【知識】 <ワークシート> C: 一つ一つの文字の意味を説明する。
ま と め	・感想を書く	個別	・わかったこと等を書き、この時間を振り返る。	・漢字の意味を板書し、わかったことを書きやすいようにする。	・しっかりと書けるように支援する。	ワークシート	

# 保健体育科学習指導案

指導者 T1 広野中学校 川井 利彦  
T2 大開小学校 岸本 久夫  
T3 広野中学校 櫻井京子、本多潤美

- 1 対象 大開小学校第6学年2組 男子14名 女子11名 計25名
- 2 日時 平成23年2月3日(木) 第5校時 13:55~14:45
- 3 場所 広野中学校 柔剣道場
- 4 学習内容 『身体作り運動』- 武道「柔道を意識して」
- 5 本時の目標
- ・ 中学校で学習する武道「柔道」を意識しながら、補助運動に取り組もうとする。 【関心・意欲・態度】
  - ・ みんなで教え合いながら柔道の帯を結ぶことができる。 **【技能】**
- 6 小中一貫教育の視点
- ・ 人と人との関係の中で立場や考えを理解し、言語を通して適切に表現したり、正確に理解したりする「伝え合う力」の育成を図る。
  - ・ 「めあて」と「まとめ」に相關のある授業展開を行うため、広野中学校区小中一貫教育学力充実部作成の「授業カード」（「めあて」「まとめ」「私語なし」「重要」）を活用する。
  - ・ 柔道の授業を通して中学校の保健体育を学ぶ心構えを身につける。
- 7 本時の展開

過程	指導内容	指導形態	主な学習活動	指導上の留意点		教材・教具等	評価
				T1	T2・T3		
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集合、健康観察</li> <li>・めあての確認</li> <li>・準備体操「広野中学校区ダイナミックストレッチ」</li> </ul>	<p>一斉</p> <p>一斉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集合、整列をする。</li> <li>・本時の「めあて」を確認する。</li> <li>・広野中校区ダイナミックストレッチをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に練習を行うために落ち着いた気持ちで授業のスタートを切ることが出来るよう助言や支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダイナミックストレッチの指導、支援をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板書カード</li> <li></li> <li></li> <li>・CDデッキ</li> </ul>	
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「身体作り運動」として柔道の補助運動</li> <li>・柔道の帯の結び方の練習</li> </ul>	<p>一斉</p> <p>一斉</p> <p>グループ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・VTRを見て補助運動をイメージ化する。</li> <li>・柔道の補助運動をする。</li> <li>腕立て伏せ</li> <li>蹴足</li> <li>ブリッジ</li> <li>脇締め</li> <li>エビ</li> <li>3人~4人組に分かれ、演示や拡大図を参考に帯を結ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージが掴めるよう助言を与える。</li> <li>・T3と共に演示を行う。</li> <li><b>【安全面】</b></li> <li>・自分の体力の範囲で取り組むことを指導する。</li> <li>・元気よく練習させると同時に畳の摩擦で擦り傷がないよう安全面の注意を促す。</li> <li>・T3と共に演示を行う。</li> <li>・グループで教え合う中で「伝え合う力」を意識させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・T3-中学校女性教諭は女子児童の支援や補助を行う。</li> <li>・T2-児童全体の体調等を観察する。</li> <li>・T3-中学校女性教諭は女子児童の支援や補助を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型TV</li> <li>・VTRカメラ</li> <li>・板書カード</li> <li></li> <li>・柔道用帯</li> <li>・帯の結び方拡大図</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校で学習する武道「柔道」を意識しながら、補助運動に取り組もうとしている。 <b>【関心】</b> &lt;観察&gt;</li> <li>C: 安全に注意しながら補助運動に取り組めるよう支援する。</li> <li>・みんなで教え合いながら柔道の帯を結ぶことができている。 <b>【技能】</b> &lt;観察&gt;</li> <li>C: 帯が上手く結べない児童にはT2、T3が個別に支援する。</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の「めあて」が達成できたかを確認</li> <li>・ケガの有無を確認</li> <li>・全員であいさつ</li> </ul>	<p>一斉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「めあて」が達成出来たか落ち着いて振り返り、わかったこと理解が深まったこと等を発表する。</li> <li>・あいさつをしっかり行い落ち着いた心で本時の授業を終える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の発表に対して適切な助言を加える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・T2-児童全体の体調等を観察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板書カード</li> <li></li> </ul>	

# 社 会 科 学 習 指 導 案

指導者 T1 広野中学校 菊井 雅志

T2 大開小学校 滝本 秀信

- 1 対 象            大開小学校第6学年3組            男子 14 名    女子 12 名    計 26 名
- 2 日 時            平成23年2月3日(木) 第5校時    13:55 ~ 14:45
- 3 場 所            広野中学校 第2学年6組教室
- 4 学習内容        「中学校の社会科ではどんな勉強をするのかを知ろう」－ 為替の仕組みを中心に －
- 5 本時の目標  
  - ・為替の仕組みについて興味・関心を持つ。【関心・意欲・態度】
- 6 小中一貫教育の視点(伝え合う力の視点を含む)  

中学校での社会科の学習は、小学校で既習の内容を基に、教科横断的な思考力を必要とする。本時は小学校社会科では学習しない公民分野の為替の仕組みを題材に、その仕組みを論理立てて説明し、「わかる」感覚をつかませ、学習意欲を高める。
- 7 本時の展開

過 程	指 導 内 容	指 導 態 形	主 な 学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点		教 材 ・ 教 具 等	評 価 (評価観点) <評価方法>
				T 1	T 2		
導 入  10 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介</li> <li>・世界の通貨を見せる</li> </ul>	一斉 個別	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各国の通貨を手に取りその違いを感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な通貨のイメージをつかませる。</li> </ul>		板書カード  <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界各国通貨</li> </ul>	
展 開 I  15 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・為替レートの仕組み</li> </ul>	一斉  個別	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円とドルを例にその交換する量によってレートが決まることを理解する。</li> <li>・小学校で習った計算を使って自分で求める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細かい部分でなく、巨視的に捉えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算方法が分からない児童を援助する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションソフト</li> <li>・プリント</li> <li>・プリント</li> </ul>	為替の仕組みについて興味・関心を持っている。【関心】 <観察> C: T2が計算方法を支援する。
展 開 II  15 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円高、円安の仕組み</li> </ul>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円高、円安という言葉とその意味を一致させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・混乱を生むところなので、整理して説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用語の意味が理解できていない児童を援助する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションソフト</li> <li>・プリント</li> </ul>	
ま と め  10 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・為替の基礎</li> </ul>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の知識を組み合わせることで理解できることに気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に海外旅行に行く場面で利用できることを紹介する。</li> </ul>			

# 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

指導者 T1 広野中学校 村瀬純子

T2 大開小学校 加茂伸子

- 1 対象 大開小学校第6学年4組 男子14名 女子12名 計 26名
- 2 日時 平成23年2月3日（木） 第5校時 13:55 ~ 14:45
- 3 場所 広野中学校 第2学年5組教室
- 4 学習内容 わたしたちの生活を考えよう
- 5 本時の目標
  - ・ひな型の製作を通して衣服の構成に関心を持つ。 (関心・意欲・態度)
- 6 小中一貫教育の視点
  - ・小学校では簡単な身の回りの物を製作したが、衣服の構成を学ぶ中で身近な衣服に興味を持たせ、中学校の学習につなげていく。
  - ・班の話し合いを通してお互いの意見を交流し、まとめる力を養う。
- 7 本時の展開

過程	指導内容	指導形態	主な学習活動	指導上の留意点		教材・教具等	評価 (評価観点) <評価方法>
				T1	T2		
導入	・本時の目標の確認	一斉	・この衣服は何枚のパーツでできているか考える。 ・本時の目標を知る。	・実物を提示して興味を持たせるようにする。		衣服  板書カード	
展開	・衣服の基本的な構成	グループ	・洋服のひな型の型紙を見て、気付いたことを発表する。	・洋服のひな型の型紙を配布し、見たままの特徴など気付いたことを発表するように助言する。	・机間指導しながら見たままの特徴などで気付いたことを発表できるように支援する。	ひな型の型紙	ひな型の製作を通して衣服の構成に関心を持つ。 【関心】 〈観察〉 C：話し合いや作業に積極的に参加できるように T2 が支援する。
	・ひな型からの衣服製作	グループ	・洋服のひな型の型紙を切り、班で協力しながら衣服を製作する。 ・製作したことから気付いたことを班で話し合う。	・各パーツのつながりを助言する。  ・製作中に苦労したことなどに気付かせ、話し合いをさせる。	・各パーツのつながりを助言する。  ・製作中に苦労したことなどに気付かせ、話し合いをさせる。	ひな型の型紙(製作用) はさみ セロテープ ワークシート	
	・立体構成の特徴	一斉	・班での話し合いの結果を発表し、お互いの意見を聞く。	・各班の発表は、静かに聞くように指示する。	・各班の発表は、静かに聞くように指示する。	板書カード	
まとめ	・本時の振り返り	一斉	・立体構成の特徴のまとめを聞く。	・各班の意見を確認し、補足して説明する。		板書カード 感想用紙	
	・本時の振り返り		・本時の授業の感想を書く。	・本時の学習で気付いたことを書かせる。			

# 総合的な学習の時間「宇治学」学習指導案

指導者 広野中学校 片山 明美 他1年学年担当教員

1 対 象 広野中学校第 1 学年 男子135名 女子120名 計 255名

2 日 時 平成23年2月3日(木) 第5校時 13:55～14:45

3 場 所 広野中学校 体育館

4 単 元 職業人講話②「プロから学ぶ」

5 生徒の実態 全体的に真面目で何事にも熱心に取り組む生徒が多く、学習活動をはじめとして様々な点で能力を発揮している。一方で実生活や自主的な活動においては消極的な面が見られる。例えば小学校の「宇治学」で学習してきた宇治の地域で、自分が実際に中学校を卒業してから、どのように生活していくのかということは、まだ具体的に考えることができていない生徒がほとんどである。また、自分の思いをしっかりと伝えることも苦手としている。従って自己の個性を見つめ、主体的に人生を切り拓いていく力や伝え合う力を身に付けさせたい。

6 単元目標

- (1) 実際に地域の特色を生かした職業に就いている方の話を聞き、宇治について様々な観点から学び、地域に主体的に関われる。(情報活用能力)
- (2) 講話を聞くことで、2年生で行う職場体験学習に向けての意識を高め、本物の仕事・本物の職業人に学び、自分の将来を考えられる。(将来設計能力)
- (3) 学んだことを発展させたり、疑問を調べたり、発表したりすることにより自分の考えを伝え合うことができる。(人間関係形成能力)

7 単元指導計画 (全4時間)

次	時	指 導 内 容	学 習 活 動
I	1	身近な職業調べ	職業について身近な人にインタビューし、レポートを作成する。
	2	職業人講話①	宇治市で勤労されている人の職業について調べ、質問などを考える。
	3	職業人講話②	宇治市で勤労されている人の職業の話聞き、まとめる。 <b>(本 時)</b>
	4	職業人講話③	職業人講話で聞いた仕事についてまとめ、発表する。

8 本時の目標 ( 本時 3 / 4 )

宇治市で働いている人の講演を聞き、講師の方の職業の特性に気づき、職業に関心を持つ。

9 授業改善の視点

講演を聴く時に、疑問に思ったことやもっと深く知りたいことを必要に応じてメモを取るよう指導し、積極的に質問したり意見交換をできるようにする。

10 小中一貫教育の視点

小学校で学んだ宇治の自然、歴史や文化から地域の特色を振り返りながら他地域では見られない職業についての講話を通して今後の宇治の姿を考える契機とする。

1 1 本時の展開

過程	指導内容	指導形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具等	評価 (評価観点) <評価方法>
導入	本時の目標と講師の紹介	一斉	本時の目標を知り、学習内容を把握する。	静かに集中して講演が聞けるように指導する。	板書カード	
展開	鵜匠の講演を聞く	一斉	講演内容をメモを取りながら聞き、講師からの職業の特性や宇治との関わりについて考える。	総合的な学習の時間や国語で学習した「メモの取り方」を生かし、効果的なメモの取り方ができるように指導する。	聞き取りメモ コンピュータ ビデオプロジェクター	A：講演を聞き、講師の方の職業の特性に気づき、職業に関心を持っている。
	グループディスカッションをする	グループ	講演を聞いて質問したいことをグループごとに話し合い、質問内容を決定する。  グループの代表が質問する。	司会を決め、お互いの意見を聞きながらどの質問にしたいか意見を交換できるようにする。	タイマー  マイク	C：自分の意見や考えを持ちにくい生徒には、他の人の具体的な例を参考に考えさせる。
	インタビュー	一斉	グループで出た質問に対する回答を聞き取り記録用紙に記入する。	他のグループの質問に対してもメモをするよう指導する。	記録用紙	
まとめ	生徒からのお礼の言葉と学年主任のまとめ	一斉	生徒代表がお礼の言葉を述べる。			

※ 女性鵜匠の紹介

澤木万里子（全国で3人目の女性鵜匠）財団法人宇治市観光協会職員

江崎 洋子（全国で4人目の女性鵜匠）京都文教大学職員